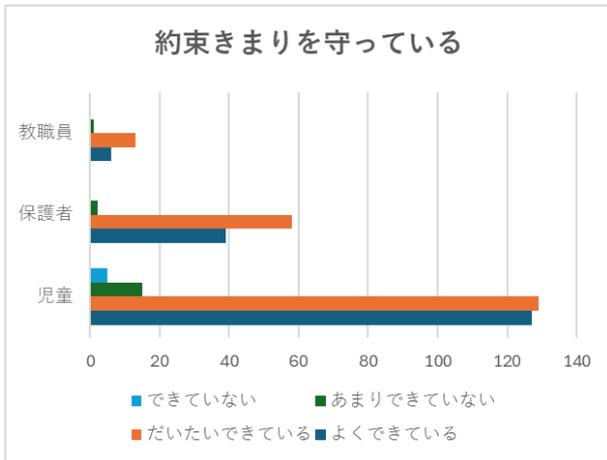
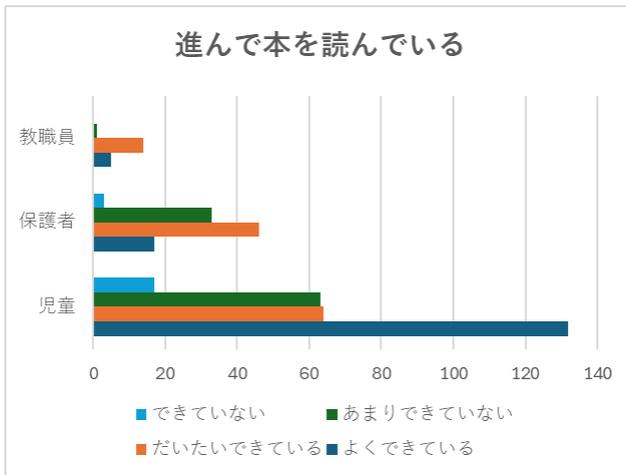


主な成果と課題



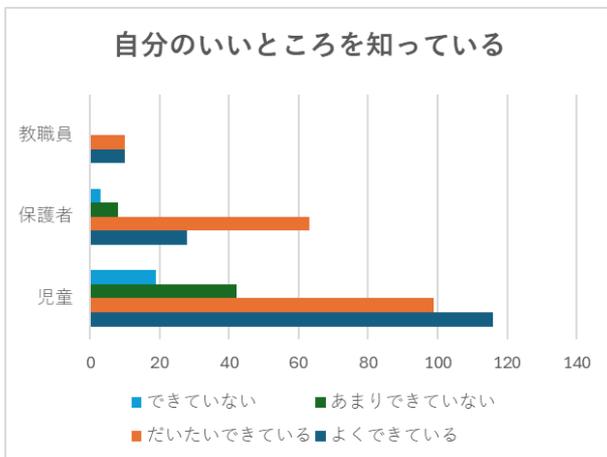
〈やさしい子〉NO.1~5

1回目同様「やさしい子」を育むための取組について振り返った設問No1~No5では、全体的に実現度が高かった。特に、本校の「約束・きまり」に関する項目では、児童93%・保護者98%・教職員95%で、非常に高い評価となった。保護者の皆様からは、ご家庭での声掛けや生活習慣づくりに積極的に取り組んでいただいていることがうかがえ、学校としても大変心強く感じている。一方、児童は自分の行動をやや厳しめに捉える傾向が見られ、細かな生活習慣の部分で「もっとできるようにになりたい」という思いが感じられる。今後の取組としては、児童の「守れている実感」をもう少し高めるために行動を可視化し、成功体験を積みせたい。また、教職員の指導における統一感をさらに磨き、ルールの解釈や声かけの基準をそろえることで、児童の実感を上げていきたい。



〈かしこい子〉NO.6~10

「読書」に関する項目では、児童71%、保護者63%、教職員95%という結果となった。三者の認識に大きな差が見られた。学校では朝読書や図書館の活用など、読書に親しむ機会を継続して設けており、教職員の実感が高い水準にあった。一方で、児童は“読みたい本に出会えていない”“読む時間が十分に取れない”など、壁を感じている様子が見えた。また、保護者の皆様からは、ご家庭での読書環境づくりが難しいという声が反映され、三者の中で最も低い結果になったと考えられる。今後は、学校の取組をより分かりやすく発信していくとともに、ご家庭でも無理なく取り組める読書支援の方法を共有していきたい。また、学校とご家庭が協力して様々な角度からアプローチし、児童の読書習慣を育てるように努めていきたい。



〈たくましい子〉NO.11~15

「自分のいいところを知っていますか」という項目では、児童78%、保護者90%、教職員100%という結果となった。大人側では子どものよさを認め、褒めることを意識しているという回答が非常に高く、学校とご家庭の双方で温かい関わりが行われていることが分かる。一方、児童自身の自己理解はやや低く、自分のよさを言葉にすることの難しさや、周囲との比較による自己評価の揺れが背景にあると考えられる。今後は児童が自分のよさに気づきやすくなるように、日々の学習や生活の中で内面に目を向けた声掛けや、友達同士でよさを伝え合う活動を充実させていきたい。

〈自由記述より(抜粋)〉

- 「勉強についていけないので、個別で教えてもらえる時間を設けてほしい」というご意見がありました。学習につまずきが見られる場合には、授業中の声掛けや机間指導、課題の量や取組内容の調整など、学級内での個別支援を行っております。また、必要に応じて休み時間や放課後の短時間のフォローを行うこともあります。ただし、学校体制として、長時間の個別指導のような形での対応は難しいことをご理解いただければ幸いです。
- 「男子更衣室を新設していただきたい」というご意見がありました。現在、女子更衣室は既存の空き教室を活用して設置している一方、男子については安全面の確保や動線の関係から教室での更衣を基本としています。学校としても児童が安心して着替えられる環境を整えることは大切であると考えております。しかしながら、校舎の構造や空き教室の状況から、現時点で新たに男子更衣室を新設することは難しい状況です。今後も教室内の更衣環境の改善や運用方法の工夫を継続してまいります。

〈その他 学校運営協議会でのご意見〉

- アンケートのご協力ありがとうございました。来年度の桃山教育アンケートもどうぞよろしくお願いいたします。